



見学会「上町台地の緑の森を訪ねて」で配られた資料。平尾さんの手づくりです



「レッツゴープラン」では、大阪の誇れる所や外国人にも紹介したい所を巡り、通塾などを訪れました



「レッツゴープラン」に参加した小学生たちから寄せられた感謝の手紙。平尾さん、北村さんともに「活動の励みになる」と顔をほころばせます



真剣な表情で説明に聞き入る小学生たち



見学会の様子

一般の市民を対象にした まちの見学会も好評

アドバイスグループは、一般市民を対象にした見学会も開催しています。「西大阪の土木遺産を訪ねる」「御堂筋を掘り下げる」「日本最古のダム・狭山池と博物館をめぐる」などテーマを設定してまち歩きを行っています。なかでも「上町台地の緑の森を訪ねて」は好評で、すでに3回を数えています。中心になって進めているのは平尾修一さん(63歳)で、土木屋さんが大半のCVVの中では、元小学校校長と異色の経歴の持ち主です。児童に地域の歴史を教えようと大阪の橋と川の研究をしていたのがきっかけ



市民対象の見学会で説明する平尾さん

「やりたい者」が任意に参加する 自由意志を持った個人同士の集まり

「やりたい者」が任意に参加する自由意志を持った個人同士の集まり。CVVは最高齢の北村正夫さん(74歳)は、大阪市水道局の出身。地下鉄や下水道工事など、戦後、大阪府が大きく発展する時期のインフラ整備に携わって来ました。「新しい技術が次々現場に入り、ものすごい勢いで土木事業が躍進していった時期でした」と振り返り、土木技術の語り部としてさまざまなことを若い世代に伝えていきたいと言います。

CVVは予算もなく会費もありません。入るのも出るのも自由で、ノルマや規制も一切ありません。連絡や情報交換は全てメール。活動企画は「この指とまれ」方式で、やりたい者が手を挙げて仲間を募ってやります。団体というより、自由意志を持った「個人」の集まりです。会員それぞれにリタイア後の豊かな人生をエンジョイしながら、利害や計算を離れてCVVの活動に熱心に取り組んでいる姿は、同じシニア世代だけでなく、現役世代に刺激を与えています。



平尾さんは社会科が専門。インフラ整備とまちの歴史のかかわりについての研究を重ねています

●「CVV」ホームページ <http://www.cvv.jp/>